

| | |
|--------|---|
| 研究課題 | 自己の生き方を追求し、よりよい社会を創ろうとする能動的学習者の育成 |
| 副題 | ～知・徳・体を総合的に育む ICT を活用したキャリア教育の実践を通して～ |
| キーワード | キャリア教育, メタ認知, 学習意欲, 自己効力感, 自己調整力 |
| 学校/団体名 | 公立長岡市立関原中学校 |
| 所在地 | 〒940-2039 新潟県長岡市関原南3丁目4920番地 |
| ホームページ | https://www.kome100.ne.jp/sekihara-jhs/ |

1. 研究の背景

本校は令和元年より教育目標を「立志 貢献」と改定し、これからの社会を担う人材育成に向けて教育活動を推進している。令和2年度より、学びと社会をつなげるキャリア教育を教育活動の中核に据え、「すべての教育活動は子供たちの将来のためであり、これすなわちキャリア教育である」という捉えで、教育活動を進めてきた。

現行の学習指導要領では、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指している（文部科学省 2018）。また、急激に変化する時代の中で学校は、「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、学習指導要領の着実な実施とICTの活用が求められている（中央教育審議会 2021）。

しかし、本校のグランドデザインも知・徳・体を柱としていたものの、知は受検教科である5教科を中心とした学習指導、徳は道徳科の授業改善、体は保健体育科の取組と、必ずしもそれぞれが、教育活動全体を通して、バランスよく、一体的な育成が行われているとは言えなかった。Society5.0社会を迎え、VUCAな時代の今こそ、日本の教育が大切にしてきた知・徳・体を生徒の将来につながるキャリア教育で総合的に捉え、ICTを活用して効果的に育成することで、「自己の生き方を追求し、よりよい社会を創ろうとする能動的学習者の育成」を研究主題として設定し研究に取り組んだ。

2. 研究の目的

知・徳・体を生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育と捉え、知の「確かな学力」、徳の「豊かな心」、体の「健康・体力」のそれぞれの基盤として「学習意欲」「自己効力感」「自己調整力」を、ICTを活用して総合的に育むことを目的とした。

これら3つの資質・能力・態度を育むために、学習指導要領の前文にある、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」をもとに、6つの基礎的・汎用的能力と設定し、さらに2つの資質・能力に分け、教育活動全体での育成を図った（表1）（文部科学省 2018）。

表1 学習指導要領前文と6つの基礎的・汎用的能力、2つの資質・能力

| 学習指導要領 前文 | 基礎的・汎用的能力 | 2つの資質・能力 | |
|----------------------|--------------|----------|-------|
| 自分のよさや可能性を認識するとともに | 自己理解能力 | 見つめる力 | 律する力 |
| あらゆる他者を価値のある存在として尊重し | 他者理解能力 | 思いやる力 | 認める力 |
| 多様な人々と協働しながら | 人間関係形成能力 | かかわる力 | 協働する力 |
| 様々な社会的変化を乗り越え | 課題対応能力 | 貢献する力 | 創造する力 |
| 豊かな人生を切り拓き | キャリアプランニング能力 | やり抜く力 | 挑戦する力 |
| 持続可能な社会の創り手となることができる | 社会形成能力 | 見通す力 | えがく力 |

3. 研究の経過

| 時期 | 主な取組 | 活動内容 | 評価 |
|-----------------|--|---|---|
| 1年次 (2021年度) | 4月 ・職員会議 ・校内研修 ・アドバイザーとの打ち合わせ | ・令和3年度の校内研究の共通理解 ・知・徳・体プロジェクト部会の研究内容の確認と役割分担 ・研究計画の修正 | ・職員による生徒の「診断的評価」 ・学校評価アンケート①(生徒、保護者、職員) 「形成的評価」 |
| | 8月 ・アドバイザー訪問①(校内研修) | 各プロジェクトから提案と協議(4つのシートの説明とその活用) | ・学校評価アンケート②(生徒、保護者、職員) 「形成的評価」 |
| | 11月 ・アドバイザー訪問②(校内研修) | ・ICTを活用した基礎的・汎用的能力を育む「キャリア教育の授業研究」 | |
| | 3月 ・アドバイザー訪問③(校内研修) | ・ICTを活用した「キャリア・パスポート」を活用した授業研究 | ・研究の評価 「総括的評価」 |
| 2年次 (2021年度) | 4月 ・職員会議 ・校内研修 | ・令和4年度の校内研究の共通理解 ・知・徳・体プロジェクト部会の研究内容の確認と年度の研究計画 | ・職員による生徒の「診断的評価」 |
| | 5月 ・アドバイザー訪問①(校内研修) | ・ICTを活用した「生活理解シート」を活用した授業研究 | ・学校評価アンケート①(生徒、保護者、職員) 「形成的評価」 |
| | 8月 ・アドバイザー訪問②(校内研修) | ・公開研究会に向けた指導案検討 | ・学校評価アンケート②(生徒、保護者、職員) 「形成的評価」 |
| | 11月 ・アドバイザー訪問③(公開研究会) | ・英語(1年)、学級活動(2年)、学級活動(3年)の授業公開研究会 | |
| | 2月 ・研究の評価 | ※学習評価、ハイパーQ-U、キャリア・パスポート、生活理解シートの分析 | ・研究の評価※ 「総括的評価」 |
| 通年 | 各プロジェクトの研究の推進 | ・「学びのポートフォリオ」「キャリア・パスポート」「自己理解シート」「生活理解シート」の作成と活用の工夫 | ・各シートの記述内容からの変容の分析による評価 |

4. 代表的な実践

本研究では全職員が知・徳・体のプロジェクトのいずれかに所属し研究に取り組んだ。

(1) 知のプロジェクトの実践

① ICTを活用したキャリア教育の授業改善

各教科等の授業の中におけるキャリア教育として、生徒の生活や社会、生き方(職業)と関係するような学習教材や題材を活用した(ア)「学習内容の工夫」と授業の学習過程に6つの共通項目(課題の提示・学習の流れの提示・個の学び・協働的な学び・まとめ・振り返り)を設定し、6つの基礎的・汎用的能力を活用し、深い学びを導く(イ)「学習方法の工夫」の2つのアプローチに全職員がICTを活用して取り組んだ。

ア 生徒の生活や社会、生き方(職業)と関連付け「学習内容」を工夫した授業例

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・南極ドイツ基地とのオンライン授業(理科: ZOOM) ・身近な飲み物の酸性・中性・アルカリ性(理科: Jamboard) ・ゲーム形式でEUへの加盟か脱退を考える(社会: スライド) ・外国の中学生に長岡花火を紹介する(英語: ミライシート, ZOOM) ・オンライン職業講話(総合的な学習の時間: ZOOM) |
|--|

イ 学習過程に6つの共通項目を設定し「学習方法」を工夫した授業例(表2)

表2 学習過程と身に付けたい基礎的・汎用的能力とICTの活用(例)

| 学習過程(共通項目) | 身に付けたい基礎的・汎用的能力 | 活用したICT |
|------------|---------------------|-----------------------|
| 課題提示 | 社会形成能力 | 職業人動画 |
| 学習の流れの提示 | 課題対応能力 | スライド |
| 個の学び | 自己理解能力・課題対応能力 | フォーム、ドキュメント、スプレッドシート |
| 協働的な学び | 人間関係形成能力 | オクリンク、ムーブノート、Jamboard |
| まとめ | 他者理解能力 | ムーブノート |
| 振り返り | 自己理解能力・キャリアプランニング能力 | フォーム、スプレッドシート |

② ICTを活用した「学びのポートフォリオ」

すべての教科の単元のまとめにおいて、

①単元で学んだことや感想、②単元の学びと生活や社会、生き方(職業)とのつながり、③単元の学びと他教科とのつながりの3観点から振り返り、学びのポートフォリオとしてスプレッドシートに蓄積した(図1)。学びと生活や社会、生き方(職業)や他教科とつなげることで、学ぶ目的や学ぶ意義に気づかせ、学習意欲の向上を図った。

図1 数学の学びのポートフォリオ

(2) 徳のプロジェクトの実践

① ICTを活用した「キャリア・パスポート」

「キャリア・パスポート」は、タブレットで生徒がフォームに入力し、教師がエクセルで出力して1枚のシートとして作成する。「これまでの自分」を振り返り、成長した「今の自分」を見つめ、「これからの自分」えがく、3つの自分の視点と教師、保護者からのメッセージ覧を加えた4つの内容で構成されている(図2)。定期的に学校生活や家庭生活を振り返ることで、メタ認知力を高め、今後の学習や生活に見通しを持ち、なりたい自分を目指し、学習や生活への意欲の向上を図った。

また、入力された「キャリア・パスポート」を、学級活動や教育相談(キャリアカウンセリング)で活用し、教員や仲間と対話的に関わる場面を設定し、自己効力感を促し、学習や生活改善への具体的な方法を見出すことに活用した。

図2 キャリア・パスポート(例)

(3) 体のプロジェクトの実践

① ICTを活用した「自己理解シート」

中学校3年間の知・徳・体にかかわる教育情報、知では、NRT(標準学力検査)、各定期考査の得点、学期ごとの9教科の評定を、徳では、Q-Uテストの個人コメントの感想と職業レディネステストの6領域の値とグラフを、体では、自己の身体の成長の記録と体力テストの結果を

1枚のシートにまとめた「自己理解シート」を教師がエクセルで作成した(図3)。もう一人の自分の視点から客観的に自己を見つめ、自己理解を促し、これからの学習や生活に目標を持たせ、意欲の向上を図った。「自己理解シート」は主に進路相談で活用し、自己の将来設計や進路選択に役立てた。

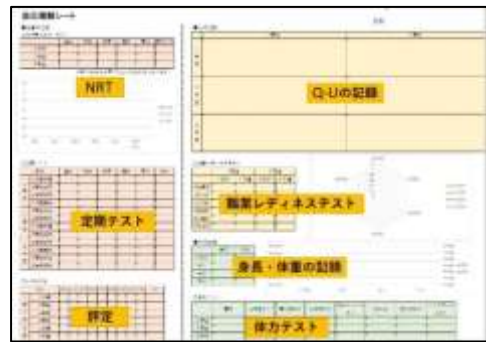


図3 自己理解シート

② ICTを活用した「生活理解シート」

生徒が、毎朝の健康観察時にタブレットでフォームに入力している起床時刻、就寝時刻、家庭学習時間、スマートフォン、ゲーム機等のメディア使用時間などの生活情報を可視化する「生活理解シート」を作成した(図4)。



図4 生活理解シート

学級活動で自分の学習や生活習慣を見直す時間を設定し、学習方法や生活改善

方法を話し合い、全体で共有し、自分に合った方略を選択・決定し、学習や生活習慣を改善しようとする意欲や態度を養った。

5. 研究の成果

(1) 基礎的・汎用的能力

生徒アンケートで、ルーブリック表(3段階 A, B以外はC評価)を用いて基礎的・汎用的能力の自己評価を行った(表3)。7月と12月ともに、12の基礎的・汎用的能力において、9割以上がA, B評価であった。7月と12月で大きな変化は見られなかったが、「見つめる力」「思いやる力」「かかわる力」「協働する力」「創造する力」「やり抜く力」「見通す力」の7つの力で、A評価が増加した。職員アンケートにおいても、基礎的・汎用的能力を意識した指導が定着してきていることがわかる。また、年3回の「キャリア・パスポート」で12の力の振り返りを行っていることから、確実に基礎的・汎用的能力が育成されていると考える。

表3 道徳の価値項目と関連付けたキャリア教育で身に付けたい力のルーブリック表

| No | 身に付けたい力 | 道徳的価値項目 | 具体的な姿 A | 具体的な姿 B |
|----|---------|---------------|--|------------------------------|
| 1 | 見つめる力 | 向上心, 個性の伸長 | 授業や活動の振り返りで、自分を見つめ、自分の力や個性を伸ばせるようにきちんと振り返ることができる。 | 授業や活動の振り返りで、きちんと振り返ることができる。 |
| 2 | 律する力 | 自主, 自律, 自由と責任 | 自分の言動に責任をもち、時と場を考えて行動することができる。 | 時と場を考えて行動することができる。 |
| 3 | 思いやる力 | 思いやり | 誰にでも思いやりをもって接することができる。 | 自分のまわりの人に、思いやりをもって接することができる。 |
| 4 | 認める力 | 相互理解, 寛容 | 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と違う意見も受け止め、相手を認めることができる。 | 自分と違う意見を受け止め、相手を認めことができる。 |
| 5 | かかわる力 | 公正, 公平 | 正義と公平さを大切にし、差別することなく誰とでも分け隔てなくかかわることができる。 | 誰とでもかかわることができる。 |
| 6 | 協働する力 | 友情, 信頼 | 仲間と協力して互いに励まし合い、高め合いながら信頼関係を築き、授業や活動に取り組むことができる。 | 仲間と協力して、授業や活動に取り組むことができる。 |
| 7 | 貢献する力 | 集団生活の充実 | 学級や学年の一員としての役割や責任を自覚して、係活動や清掃など、人の役に立つことに一生懸命に取り組んでいる。 | 係活動や清掃など、人の役に立つことに取り組んでいる。 |
| 8 | 創造する力 | 社会参画, 公共の精神 | 居心地のよい学校や社会にするために自分ができることを探し、みんなのことを考えて行動している。 | 居心地のよい学校や社会にするために行動している。 |

| | | | | |
|----|-------|-------|---|--------------------------|
| 9 | やり抜く力 | 強い意志 | 困難や失敗に負けず、学習や活動に、最後まであきらめないで取り組むことができる。 | 学習や活動に、一生懸命に取り組むことができる。 |
| 10 | 挑戦する力 | 希望と勇氣 | 学習や部活動など、自分の夢やより高い目標に向かって自信をもって挑戦している。 | 学習や部活動など、目標に向かって挑戦している。 |
| 11 | 見通す力 | 向上心 | 学習や部活動など、自分の力を伸ばすために先を見通して、目標や計画を立てて努力している。 | 学習や部活動など、目標や計画を立てている。 |
| 12 | えがく力 | 勤勞 | 働くことの尊さや意義を理解し、将来なりたい職業や夢の実現に向けて、自分の進路を考えている。 | 将来なりたい職業や夢など自分の進路を考えている。 |

(2) 学習意欲

学習意欲については、生徒アンケートの「私は、意欲的に授業に取り組んでいる」という質問項目では、9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。また、令和4年7月に比べ、12月の結果のほうが、「当てはまる」と回答した生徒が増加した。さらに、ハイパーQ-Uの「学習意欲」の結果も全国平均よりも高く、わずかではあるが6月の結果よりも12月が向上した項目が認められた(図5)。なお、数値は、ハイパーQ-Uの5段階評価(とてもそう思う5点、少しそう思う4点、どちらともいえない3点、あまりそう思わない2点、全くそう思わない1点)に、それぞれの回答した割合に掛け、合計を数値化したもので比較した。

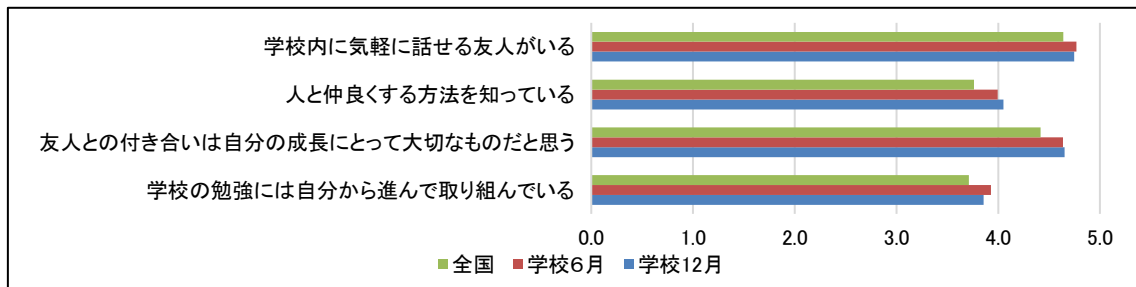


図5 ハイパーQ-Uの「学習意欲」の結果分析

(3) 自己効力感

自己効力感の評価は、課題対応能力の「最後までやり抜く力」と「自信をもって挑戦する力」の変化を分析した。生徒アンケートでは、「やり抜く力」は、ルーブリック表のA評価が少し増加したが、「挑戦する力」には、7月と12月で変化は見られなかった(図6)。しかし、キャリア・パスポートの基礎的・汎用的能力の自己評価においては、「最後まで取り組む力」や「自信をもって挑戦する力」をこれから「身に付けたい力」、これまでに「身に付いた力」として評価しており、課題対応能力の向上を意識して取り組んでいたことがうかがえ、自己効力感が育まれていると考える。

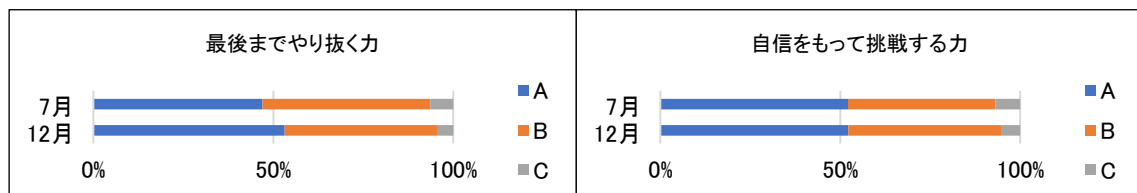


図6 生徒アンケートの自己効力感の結果から (7月 N=236 12月 N=226)

(4) 自己調整力

自己調整力については、令和3年度12月と令和4年度12月の生徒アンケートの結果を比べると、全体的に向上したことがわかる(図7)。

また、自己理解シートに入力されたデータの月ごとの数値をグラフ化し比較した結果、1, 2

年生は同じような推移を示したが3年生は高校受験への指導と進路意識の向上から学習時間の向上を見ることができた。今後はグラフとして視覚化されたデータを生徒に定期的に提示することで、自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成を図りたい。

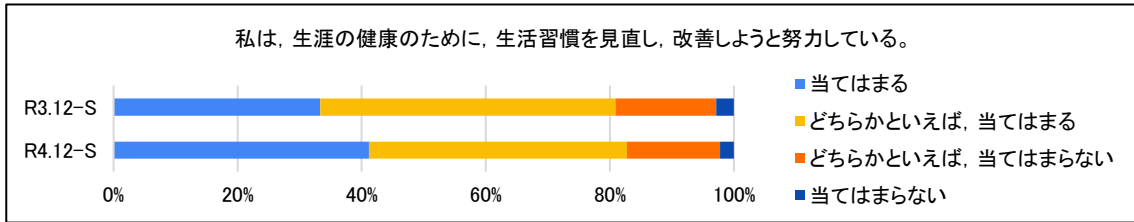


図7 生徒アンケートの自己調整力の結果から (R3.12 N=255 R4.12 N=226)

6. 今後の課題・展望

生徒が、学習の目的や意義を考え、自己の学習や生活を振り返り、今後の学習や生活への意欲を高めることに、データ（エビデンス）の蓄積や分析、可視化するICTを活用した4つのシートは有効であった。また、ICTを活用したキャリア教育を全校体制で取り組んだことにより、教員の知・徳・体に対する捉えが、これまでの5教科、道徳科、保健体育科の捉えから、将来を生きる力としての捉えに変化した。

しかし、課題としてはハイパーQ-Uの「進路意識」が全国に比べ低く、6月と12月で変化も見られなかった（図8）。授業におけるキャリア教育や、職場体験などの体験活動が自分ごととして捉えられず、自己の進路に結びついていないことが原因と考える。今後は、キャリア教育と進路指導をどのように関連付けながら指導していくかが最大の課題である。

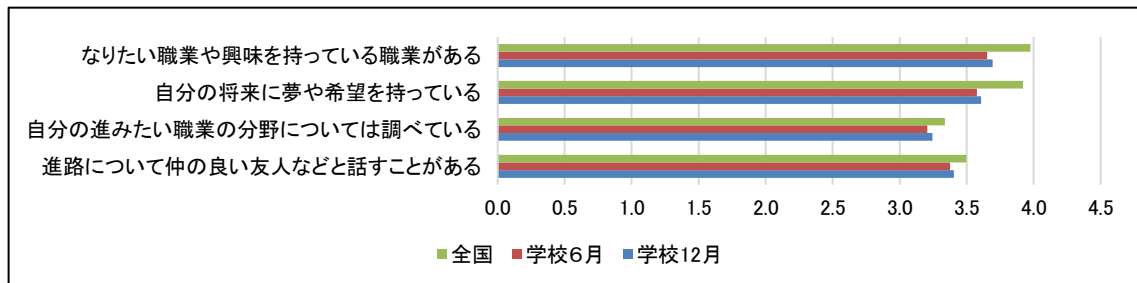


図8 ハイパーQ-Uの「進路意識」の結果分析

7. おわりに

今後、Society5.0社会を、VUCAの時代を生きていく子どもたちにとって、ますます「生きる力」の育成が求められる。また、ICTの利活用も必要不可欠である。ICTを活用し、より効果的なキャリア教育を実践していくことで、生徒一人一人が「なぜ学ぶか」「何のために働くのか」「どのように生きるか」の解を見出し、能動的な学び手となれるよう教育活動を推進していきたい。

8. 参考文献

- ・文部科学省 2018 中学校学習指導要領（平成29年度告示）
- ・中央教育審議会 2021 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学と、協働的な学びの実現～（答申）